

テニュアトラック普及・定着事業

OCUテニュアトラック研究集会

「音楽する場を作ること:音楽教育、アートマネジメントの例とともに」

2020年 3月6日(金) 13:00-15:30

大阪市立大学 学術情報総合センター1階 文化交流室

概要

昨今、多様な人々が共同で音楽作りをする実践が、様々に試みられるようになってきました。

作曲家が単独で行うのではない音楽作りには、どのような技術や知が用いられ、何をもちたすのでしょうか。

コミュニティ音楽、音楽教育やアートマネジメントの視点から、障害のある人や生きづらさを抱える人々がともに音楽する場を作ることについて、考えたいと思います。

プログラム

13:00～ [開会の辞] 櫻木弘之 大阪市立大学 副学長
テニュアトラック普及・定着事業運営委員長

13:05～ [研究発表] 沼田里衣 都市研究プラザ テニュアトラック特任准教授
「音と言葉:知的障害者との共同制作プロセスで共有されるもの」

13:35～ [講演1] 上野智子 和歌山大学教育学部 准教授(音楽教育学)
「学校の中で音楽すること」

13:55～ [講演2] 中村美亜 九州大学大学院芸術工学研究院 准教授(芸術社会学)
「共創の場のデザイン」

14:25～ [ディスカッション] 司会:ほんまなほ 大阪大学COデザインセンター 准教授
「音楽を動かしていくこと - 対話活動を通して」

15:25～ [閉会の辞] 宮野道雄 大阪市立大学 学長補佐
テニュアトラック普及・定着事業運営副委員長

参加申し込み

参加費は無料です

大阪市立大学テニュアトラック普及・定着事業事務局(tenure-track@ado.osaka-cu.ac.jp)
あてに電子メールでお申込み下さい。
当日参加も受け付けますが、事前申し込みにご協力をお願いします。



発表者プロフィール

沼田里衣

技術や価値観の差異を超えた音楽作りについて、理論研究を行うとともに、知的障害者、乳幼児、小学生や高齢者と即興音楽ワークショップや公演活動を通して、実践研究も行っている。2005年～2017年「音遊びの会」代表、2013年に行ったイギリスツアーがNHKのEテレで3夜にわたり特集される。2014年より「おとあそび工房」主宰。共著に『障がいのある人の創作活動—実践の現場から』、『ソーシャルアート：障害のある人とアートで社会を変える』等。

上野智子

学校教育において音楽療法の原理や技法を用いた音楽活動の在り方を探る研究を行っている。2013年より和歌山大学の公立学校との連携事業として、同大学の菅道子(音楽教育)、山崎由可里(特別支援教育)とともに、県内の中学校特別支援学級の「自立活動」にて、音楽療法の考え方や方法を取り入れた音楽活動「音楽の時間」を実践している。2017年、2019年にはベトナム・ハノイにて、特別支援教育関係者に対し、音楽療法的な視点による音楽活動のための講習を行った。教育学修士(広島大学)。2013年より現職。

中村美亜

芸術活動が人や社会に変化をもたらすプロセスや仕組みに関する研究、その知見を生かした文化政策の研究を行っている。学術博士(東京藝術大学)。著書に『音楽をひらく—アート・ケア・文化のトリロジー』(水声社、2013年)など。東京藝術大学助教などを経て、2014年より現職。九州大学ソーシャルアートラボ副ラボ長。2019年3月に、文化庁と九州大学の共同研究の成果として『はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック』を刊行。

ほんまなほ

大阪大学COデザインセンター准教授として新しい大学・大学院教育のプログラム創成に従事し、臨床哲学を専門に、哲学対話、こどもの哲学、身体・映像・音楽表現などの教育研究を行う。また、ガムラン奏者として、伝統音楽から現代作曲家による新作まで幅広いレパートリーの国内外での演奏に出演。現在は歌や詩などの共同創作や教育に取り組む。著書『ドキュメント臨床哲学』、『哲学カフェのつくりかた』『こどものてつがく』(共編著)ほか、『アートミーツケア叢書』を監修。